

社会福祉法人戸越ひまわり福祉会季刊誌

さんサンSUN

No.2 2015年 秋・冬号

発行元

社会福祉法人戸越ひまわり福祉会
(品川区大崎 3-1-9、TEL:03-3495-7600)

運営保育園

大崎ひまわり保育園
(品川区大崎 3-1-9、TEL:03-3495-7600)
あけぼの保育園
(中野区上高田 2-58-21、TEL:03-3385-3822)



あけぼの保育園の子どもたち

立派な5歳児！お泊り保育での光景

あけぼの保育園 佐藤 有美子

「こどもが！こどもだけでかんがえたの。あるときも だれと（手を）つなぐか、こどもだけで はなしあつてきめたの」

これは7月に行われたお泊まり会の時に5歳児が言ったことばです。夕飯のカレー作りの材料を買いに行った時、なぜか手つなぎの相方や先頭を歩く順番が複雑に変化していくのです。買い物は6人程度の4つのグループに分かれるため、担任でない私には引率していたものの不可解な行動だったので質問してみたわけです。

4軒ほどのお店を回るのに全員が先頭を歩きたいので、どうしたらグループのメンバー全員が先頭を歩けるか話し合って決めたそうです。

もちろん決まりごとは他にもいろいろあり、担任を中心に滞りなく準備されていくわけですが、こどもたちは「こどもたちだけで」しかも「はなしあつて」「きめた」と胸を張って何も知らない私に教えてくれたのです。なんと

たくましく、立派なことでしょう！まだ担任に叱られたり、けんかして泣くこともある5歳児ですが、この時ばかりはまさしく生活の主人公になりきっていました。しかも「じぶんで」ではなく「こどもみんな」でやりぬいたお泊まり会は保育園ならではのキラキラと輝く思い出となったことでしょう。



大崎ひまわり保育園の子どもたち

「初めてづくしの運動会」

大崎ひまわり保育園 仲沢 協子

9月26日（土）第2回大崎ひまわり保育園運動会が行われました。

「小学校の校庭で行うのも初!」「5歳児がいるのも初!」と初めてづくしの運動会でした。年度の初め4月から職員間では、どんな運動会にしようかと議論をつくしてきました。

毎日行っているリズム運動をどんなふうに運動会に取り入れていこうかと話し合ったり、日頃から大事にしている食育活動を伝えられるように「障害物走に取り入れよう!」とアイデアを出しあったりしました。

運動会を通して、「見てもらう」だけでなく、「何を大事に保育している

か伝える」ことをしよう!!と送り迎えの時などに保護者に子どもの練習の様子を伝えるとともに、競技紹介の中に織り交ぜたりして工夫をしてきました。

終えてみると、保護者からは「あたたかい運動会だった」との声が多く、30年間戸越の地でやってきた文化がそのまま根付いていたことが分かり、職員一同「良かった」と安堵しました。今後の保育内容を更に充実したものとするための課題を意識しつつ、運動会ごっこに夢中な子どもたちと「初めてづくしの運動会」を噛みしめているところです。



1 会場となった品川区立芳水小学校校庭

2 4歳児リズム運動（とんぼ）

3 2歳児障害物走（ミックスジュースをつくろう）

屋上に緑がある保育園 ECO 保育園をめざして

戸越ひまわり福祉会理事長

志賀 勝

法人理念の一つである「自然に学ぶ」を実現するために、大崎ひまわり保育園はECO 保育園をめざし、新園舎の建設にあたりました。

ECOの内容は、①雨水利用設備の設置。②ECOプランターの設置。プランターの底に雨水保水槽（コーヒー殻樹脂材焼却時二酸化炭素発生削減）があるものです。③咲き終わった草花と固くなった



黒土・腐葉土・石灰で、畑の畝を作る作業



完成した畑



さつま芋畑



ミニトマト果実

土を全て土壌に混ぜ再生、再利用。④生ゴミ乾燥器導入で、生ゴミを土壌に還元。

以上が循環型ECO…種々苗々収穫土壌に還元し肥えた土壌に变身させ廃棄ゴミを発生させないという仕組みを取り入れています。

その一番のプロジェクトが屋上の緑化です。40㎡の屋上（園庭）を緑化し、初年度にあたる2015年度は、植栽

検討・土壌作りを経て「さつま芋」と「ミニトマト」作りに挑戦しました。その結果、園児が収穫をして、作物を食べることができるようになりました。

「さつま芋」は、根・芋・茎（紫色）・葉柄（ようへい）・葉の部分に分けられます。葉柄部分は、フキのように外皮を剥いてから茹でます。①サラダに和える。②醤油と鰹節で煮

る。③ごま油と塩で混ぜてマリネにする3種類の調理法を教えていただき、砂糖を使わない新鮮な野菜として食べました。

保育園緑化事業につきましては、原由紀子先生に、ご指導を受けて取り組んだ成果となっております。

来春に向けての取り組みにご期待下さい。

社会福祉法人戸越ひまわり福祉会の沿革

昭和38年から43年に品川区内に創設された3つの未認可保育園（こぐま・ひよこの家・あゆみ）が当法人の前身です。3園が産休明けからの0才児保育、長時間保育に積極的に取り組み、公的保育の補完の役割を果たし、長い間、働く父母を支えてきました。昭和57年、低年齢児保育の需要増大に応じて、区有地の無償貸与を受け、0才から2才の認可保育園（旧戸越ひまわり保育園）を建設することを目的に、社会福祉法人を設立しました。

平成17年4月から中野区立保育園の民間委託を受託し、中野区にあげぼの保育園（現在定員110名）を開園しました。また、平成26年4月より、品川区戸越6丁目から大崎3丁目へ移転し、園名を大崎ひまわり保育園に改め、定員70名（0歳～5歳）の新たな園舎での保育を開始しました。